

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350668

研究課題名(和文)自殺未遂歴のある精神障害者に対する特化型就労支援プログラムの開発と展開

研究課題名(英文) Development of a program providing both psychiatric care and a working-support service for people who have survived a suicide attempt

研究代表者

橋本 健志 (HASHIMOTO, TAKESHI)

神戸大学・保健学研究科・教授

研究者番号：60294229

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、自殺未遂歴および希死念慮がある精神障害者に対してリスクをマネジメントしながら、就労支援を行う特化型就労支援プログラムを開発しその有用性を検討することを目的に実施した。このプログラムは、医療機関と連携した特化型就労支援窓口と携帯メール自動配信サービスから成り立っている。K市内の就労支援事業所と精神科診療所外来作業療法部門の2箇所で医療機関と連携した特化型就労支援窓口を開設しその有用性を検討した。さらには、希死念慮等の精神症状を有する精神障害者に対して携帯メールを配信するプログラムを開発し、それによって希死念慮が低下し、社会資源を積極的に利用する者が有意に増加したことを報告した。

研究成果の概要(英文)：We developed a program providing working-support services for people who survived a suicide attempt and/or had suicidal ideation. The program consisted of a psychiatric consulting service and a mobile phone intervention. The psychiatric consulting service was implemented by a psychiatrist and an occupational therapist at a working-support center. The consultation about their own psychiatric condition and occupational performance reinforced the coordination of working-support services with appropriate psychiatric resources. The mobile phone intervention involved promoting help-seeking behaviors by sending text messages including information about social welfare services and reminders about medical appointments. After the intervention period, the number of participants who used social services significantly increased and the attending psychiatrists rated their suicide ideation as weaker. These results suggest that this integrated program is useful for people with suicidal ideation.

研究分野：精神障害者リハビリテーション学

キーワード：精神障害者 就労支援 自殺予防 希死念慮 携帯メール 作業療法 社会参加

1. 研究開始当初の背景

高い自殺率が続く我が国において自殺対策は喫緊の課題である。種々の自殺予防対策が実施されているが、'自殺未遂歴がある精神障害者'および'希死念慮がある精神障害者'に対して、社会参加や就労の支援は十分ではない。

自殺未遂歴や希死念慮がある精神障害者の社会参加については、再自殺企図などのリスク回避が最も重視され、社会参加に対して十分な支援が実施されているとは言い難い。社会参加の中で就労に関しては、医療者側からは、ストレスを回避すべきであると判断され、就労支援者側からも就労準備が整っていないと判断されることが多い。さらに就労の受け入れ側は「自殺未遂歴がある精神障害者の対応が分からない」といった不安を持っている場合もあり、容易には就労に結びつかない。障害が重度であればあるほど、働く機会を提供することが社会的包摂における就労支援の基本原則であるが、自殺未遂歴のある精神障害者は、たとえ「働きたい」と思っても、リスク回避のために、周囲から支援が得られにくいのが現状である。

社会参加には様々な形があるが、なかでも就労は経済的動機のみならず個性の発揮、自己実現の動機に繋がる。すなわち就労によって自殺への動機と拮抗する「生きる動機」を持ち得ると考えられ、単にリスク管理という受動的な自殺防止対策以上の効果をもつと考える。

特化型の就労支援相談窓口があれば個別性の高い就労支援が可能となる。窓口構成メンバーを作業療法士と医師を中心メンバーとすることにより、相談者個人の作業遂行能力と心身の状態を適宜評価でき、また医療機関との連携協力も円滑になる。また、特化型就労支援相談窓口開設に加えて、今回新たに実施する ICT を用いた支援によってリスクマネジメントを強化できる。具体的には携帯メール配信によって 受診予約日の通知(受診行動の支援)と 相談窓口や自助グループ等の情報提供を行う。当事者は、携帯に保存された連絡先に容易にアクセスできるようになり、緊急時もそうでない時も、容易に医療・社会的資源を利用できる。

特化型就労支援相談窓口と携帯メール配信の両者によって、リスクマネジメントされた医療・保健・福祉を結ぶ緊密な就労支援地域ネットワークが構築でき、自殺未遂歴や希死念慮がある精神障害者の就労と社会参加の実現に直接的に貢献できると思われる。

2. 研究の目的

本研究は、自殺未遂歴がある精神障害者に対してリスクをマネジメントしながら、就労支援を行う特化型就労支援プログラムを開発し、その有用性を検討することを目的に実施した。この特化型就労支援プログラムは、医療機関と連携した特化型就労支援窓口と、

人と社会とのつながりを促進することを目指した携帯メール自動配信サービスから構成される。

3. 研究の方法

(1) 特化型就労支援プログラムの開発のための情報を得るために、希死念慮等の重度精神症状を有する統合失調症患者 199 名の退院時、すなわち地域移行時における患者の主観的健康状態について評価尺度を用いて調査した。

(2) さらなる情報収集のため、自殺企図などの衝動行為が生じることがある統合失調症の急性期患者 26 名に対して、急性期早期からの作業療法を試み、早期からのリハビリテーションの実行可能性、安全性、そして効果について、対照群 20 名と比較し検討した。

(3) 特化型就労支援プログラムの柱の 1 つとして、医療機関と連携した特化型就労支援窓口を開設し、その有用性を検討した。同時に就労者の日本語版 Recovery Assessment Scale(RAS)を用いて、窓口利用者 37 名のリカバリー度を測定した。

(4) 特化型就労支援プログラムのもう一つの柱である自動メール配信サービスでは、自動配信プログラムを開発し、希死念慮等の精神症状を有する精神障害者 30 名に対して、社会とのつながり行動を支援するメールを配信することによって、医療機関への受診行動が維持されるか、福祉相談窓口や自助グループ等の福祉資源の利用につながるか、そして希死念慮が減少するかについて検討した。

4. 研究成果

(1) 希死念慮等の重度精神症状を有する統合失調症患者の退院時には、客観的精神症状の改善が認められる一方で、患者は主観的な健康状態については回復感がないまま、とくに対人関係における疲労感が残るまま退院していることを明らかにした。

急性期には、患者の主観的な回復感に注意を向け、対人関係における疲労感が減少する急性期治療およびリハビリテーション介入が必要であり、そのことが退院後の社会復帰を安全にかつ円滑にすることが示唆された。

(2) 急性期早期からの作業療法介入は、安全に実施可能であり、対照群と比べて介入群では、統合失調症患者の退院時のコミュニケーションと社会的認知が有意に改善した。早期からの良く計画されたりハビリテーション介入は、患者が地域社会へ移行し、就労等の社会参加をする上で重要であることが示された。

(3) 上記の(1)(2)の情報を元に、医療機関と連携し、神戸市内の就労支援事業所(構成:精神保健福祉士、作業療法士および医師)と精神科診療所の外来作業療法部門(構成:作業療法士と医師)の 2 箇所に特化型就労支援窓口を開設した。窓口利用者の実際の就労支援結果およびリカバリー度につ

いて調査したところ、窓口が、医療機関、就労支援機関、利用者の三者間の橋渡し役として機能することによって、多くの患者は、安全に、かつスムーズに就労等の社会参加が実現できると考えられた。リカバリー評価尺度を用いてリカバリーの状況を調査したところ、就労が実現したからといって必ずしもリカバリー度が向上するわけではないことを明らかにした。このことは、就労後も患者は次の課題に直面しながら生活していることを反映していると考えられ、患者の安全な地域生活のためには、就労後においても適切な継続支援が重要であることが示唆された。

(4) 携帯メールの自動配信プログラムを開発した。希死念慮等の精神症状を有する精神障害者に対するメール配信によって、受診行動の支援と、福祉相談窓口や自助グループ等の情報提供を行ったところ、このサービス利用者の医療機関受診行動は継続され、専門家に相談する者が増加し、社会施設や地域のサービスを利用するといった援助希求行動が有意に促進された。さらに、利用者の希死念慮は介入前よりも有意に低下した。これは、コントロール群を設定しないパイロット研究であるが、精神科通院患者に対するメールによる介入は、患者の援助希求行動の促進や自傷行為の減少、ひいては安全かつ安定した地域生活の維持促進につながることを示唆された。

(5) 本研究の特化型就労支援窓口の目指す方向性と類似のものとして、最近、医療者が関与する就労支援事業所や精神科デイケアの就労支援プログラムが注目されるようになってきているが、効果や有用性に言及した報告は極めて少なく多くは実践報告である。また、スマートフォンや携帯電話等の普及に伴い、ICTを用いた障害者に対するサービスが実施されつつあるが、これも効果についての報告はほとんどない。本研究は参加協力が容易でない障害者を対象とした希有な効果検証研究であり、得られた研究結果は今後のリハビリテーション介入に役立つ貴重な情報である。今後は、本研究結果をもとに、対象者数を増やして多施設比較対照試験を実施することによって、自殺未遂歴があり希死念慮を有する精神障害者の社会参加を容易にする科学的リハビリテーション介入が確立されるものと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

KODAMA Toyohiko, SYOUJI Hiroko, TAKAI Sachiko, FUJIMOTO Hirokazu, ISHIKAWA Shinichi, FUKUTAKE Masaaki, TAIRA Masaru, HASHIMOTO Takeshi. Text Messaging for Psychiatric Outpatients: Effect on Help-Seeking and

Self-Harming Behaviors. J Psychosoc Nurs Ment Health Serv. 査読(有). 2016 Apr 1;54(4):31-7. doi: 10.3928/02793695-20160121-01.

田中 千都, 四本 かやの, 田中 究, 橋本 健志. 強迫性緩慢の若年女性に対する作業療法. 作業療法. 査読(有). 34巻2号 Page189-197. 2015.

橋本 健志. 急性期統合失調症患者に対する作業療法. 日本精神科病院協会雑誌. 査読(無). 34巻7号,687 -692. 2015

Tanaka C, Yotsumoto K, Tatsumi E, Sasada T, Taira M, Tanaka K, Maeda K, Hashimoto T. Improvement of functional independence of patients with acute schizophrenia through early occupational therapy: a pilot quasi-experimental controlled study. Clin Rehabil. 査読(有). 2014 Feb 19;28(8):740-747. PMID: 24554687

Ohata H, Yotsumoto K, Taira M, Kochi Y, Hashimoto T. Reliability and validity of a brief self-rated scale of health condition with acute schizophrenia. Psychiatry Clin Neurosci. 査読(有) 2014 Jan;68(1):70-7. doi: 10.1111/pcn.12105.

〔学会発表〕(計 11 件)

北岡祐子, 岡坂哲也, 中川朋子, 宮脇優子, 橋本健志. 精神障害がある方のリカバリーについての一考察～日本語版 Recovery Assessment Scale(RAS)の測定から～. 2015年日本精神障害者リハビリテーション学会第23回高知大会. 2015年12月3日(木)-5日(土). 高知市文化プラザかるぼーと(高知県・高知市).

大島久典, 平良勝, 四本かやの, 中西弥生, 金澤美佳, 芝原みちよ, 橋本健志. 急性期統合失調症患者の退院時の主観的な人疲れに影響を与える要因. 2015年日本精神障害者リハビリテーション学会第23回高知大会. 2015年12月3日(木)-5日(土). 高知市文化プラザかるぼーと(高知県・高知市).

Kayano Yotsumoto, Masako Okurura, Takeshi Hashimoto. OT helps a person who has been repeatedly taking sick leave: A case report. The 6th Asia-Pacific Occupational Therapy Congress. 2015年09月14日～17日. Rotorua, New Zealand.

Kayano Yotsumoto, Takeshi Hashimoto, Yuko Nishimura. Effectiveness of the self-study of social resources in schizophrenia: a pilot randomized controlled study. The 6th Asia-Pacific Occupational Therapy Congress. 2015年09月14日～17日. Rotorua, New Zealand.

橋本 健志. 作業療法の力「世に棲む」を助ける. 第49回作業療法学会, 招待講演. 2015年06月19日~6月21日. 神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場(兵庫県・神戸市).

真下いずみ, 橋本 健志, 四本 かやの. アウトリーチ支援中に入院した精神疾患患者の属性から見る入院率低減に繋がる支援についての後方視的解析研究. 第49回作業療法学会. 2015年06月19日~6月21日. 神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場(兵庫県・神戸市).

大畠久典, 四本かやの, 平良勝, 橋本 健志. 急性期統合失調症患者の退院時の主観的気分に影響を与える要因. 第49回作業療法学会. 2015年06月19日~6月21日. 神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場(兵庫県・神戸市).

四本かやの, 奥村満佐子, 橋本健志. 症状軽減後に長期間社会参加状態の回復しない診療所受診患者に対する作業療法. 第49回作業療法学会. 2015年06月19日~6月21日. 神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場(兵庫県・神戸市).

早川智美, 四本かやの, 北林百合之介, 橋本健志. デイケア通所中の統合失調症患者の健康管理の積極性について. 第49回作業療法学会. 2015年06月19日~6月21日. 神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場(兵庫県・神戸市).

児玉 豊彦, 橋本 健志, 庄司 寛子, 高木 幸子, 藤本 浩一, 石川 慎一, 福武 将映, 平良 勝. 精神科通院患者への携帯メールによるアプローチ 援助希求行動と自傷行為への影響. 日本精神神経学会学術総会. 2015年06月4日-6日. 大阪国際会議場(大阪府・大阪市).

Ohata H, Yotsumoto K, Taira M, Kochi Y, Hashimoto T. Subjective health conditions in involuntarily admitted patients with acute schizophrenia. XVI World Congress of Psychiatry. September14-18, 2014. Madrid, Spain.

〔図書〕(計 1件)

橋本健志. 文光堂. 作業療法基礎知識と技術, 薬物. 臨床精神作業療法入門. 田端 幸枝 (編集), 山崎 郁子 (編集), 谷口 英治 (編集). 2015, 18(p131-149).

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.healio.com/psychiatry/journals/jpn/2016-4-54-4/{1ec2fa65-ef80-41c7-beeb-e9ef6fbd063f}/text-messaging-for-psychiatric-outpatients-effect-on-help-seeking-and-self-harming-behaviors.pdf>
<http://www.ams.kobe-u.ac.jp/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本 健志 (HASHIMOTO, Takeshi)
神戸大学・保健学研究科・教授
研究者番号: 60294229

(2) 研究分担者

四本 かやの (YOTSUMOTO, Kayano)
神戸大学・保健学研究科・准教授
研究者番号: 10294232

児玉 豊彦 (KODAMA, Toyohiko)
三重大学・医学部・講師
研究者番号: 10549166

田中 千都 (TANAKA, Chito)
神戸大学・保健学研究科・助教
研究者番号: 60570257

平良 勝 (TAIRA, Masaru)
神戸大学・医学(系)研究科(研究院)・研究員
研究者番号: 30444574

大畠 久典 (OHATA, Hisanori)
神戸大学・保健学研究科・研究員
研究者番号: 40726014

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

北岡 祐子 (KITAOKA, Yuko)
藤本 浩一 (FUJIMOTO Hirokazu)